

2024 年度 春夏学期

授業改善アンケート調査結果

大阪大学人間科学部・大学院人間科学研究科

大阪大学人間科学部・大学院人間科学研究科 評価委員会

授業改善アンケート調査結果

1. 授業改善アンケートの概要

人間科学研究科では、2004年度より、毎学期末に授業に関して受講生に尋ねるアンケートを実施している。講義科目を対象に授業内でマークシート用紙の配布・回収により実施していたが、2016年にグローバル30人間科学コース（以下、G30）、2017年度には、講義科目以外の演習、実習、研究も対象科目となった。2020-2021年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から授業がオンライン化したことをうけ、QRコードを利用した非接触型のWEB方式に切り替えたが、WEB方式での回答率の低さを改善すべく、2022年度春夏学期からは、すべてマークシート方式に変更した。

2024年度春夏学期アンケート回答期間：2024年7月8日（月）～8月7日（水）

対象科目は、人間科学部・人間科学研究科で実施されている講義、演習、実習、研究を含む全科目である。講義科目と講義以外の回収率は以下の通りである。なお、講義科目および講義以外の科目について、対象科目数・回答数と科目群ごとの内訳を記す。受講登録者数に対する回収率は、69.8%であった（参考：2023年度春夏学期72.9%、同年度秋冬学期71.5%）。

2024年度春夏学期授業改善アンケート 講義科目
対象科目数・回答数

		対象科目数	回答数
学部科目	共通科目	9	407
	行動系科目	9	147
	社会人間系科目	12	131
	教育系科目	12	206
	共生系科目	7	109
大学院科目	共通科目	2	92
	行動系科目	8	44
	社会人間系科目	4	23
	教育系科目	14	92
	共生系科目	8	70
G30科目		11	77
計		96	1398

回収数 1398 / 受講登録者数 2002 = 回収率 69.8%

※1 基礎科目は、行動・社会人間系・教育・共生系科目に割り振られている。

※2 受講登録者数は、アンケートが実施された科目についての数値である。

大阪大学人間科学部・人間科学研究科

回収結果は数値化して集計し、自由記述分も含めて教員にフィードバックされている。さらに 2010 年度後期より、授業担当教員からアンケート結果を踏まえて授業の振り返りのコメントの提出を求めており、次回の授業の改善に役立てられている。

2. 授業改善アンケートの結果

2020-2021年度は、全科目をアンケート実施対象科目とし、QRコードを利用した非接触型のWEB方式に切り替えたが、WEB方式での回答率の低さを改善すべく、2022年度よりすべてマークシート方式に変更した。その結果、2021年度春夏学期の授業改善アンケート回収率22.9%から、2022年度春夏学期は72.2%（49.3ポイント上昇）、2023年度春夏学期は72.9%（50.0ポイント上昇）となり、大幅に改善をみせた。2024年度春夏学期も69.8%と例年並みに高い回収率となった。

主要な質問項目である、授業の満足度についての問10「この授業は全体として良い授業だったと思いますか？」（1～5の範囲で数値が高いほど高評価を意味する）については、平均が4.36（前年度4.39）と前年度並みに高い値となった。問9「この授業で学問的知識が身についたと思いますか」については、「そう思う」と回答している学生の割合が8.2ポイント上昇しているものの（54.5%→62.7%）、「強くそう思う」と回答している学生の割合は9.3ポイント減少している（36.4%→27.1%）。このことから、専門知識の習得を求める学生の要望に応え、さらなる満足度の向上につながるような改善が必要と考えられる。

満足度に関する問10以外の質問項目の概要は、以下の通りである。

問1の「この授業へのあなたの出席率はどうでしたか？」に関しては、「80%以上出席」が83.0%（2022年度87.5%、2023年度87.9%）と例年並みに高い値となったが、2021年度春夏学期94.6%よりも減少している。新型コロナウイルス感染拡大防止の観点からオンライン授業が中心であった2021年度の結果と、対面授業やブレンド授業へと徐々に移行してきた2022年度以降の結果は、単純に比較できないとはいえ、出席率の向上は今後の課題である。問2の「この授業の予習・復習にあてた1週間あたりの平均時間はどれくらいですか？」については経年変化を見ているが、今回「ほとんどなし」と答えたのは21.9%となり、前年度22.5%より僅かに減少しているものの、2022年度春夏学期11.6%よりも増加しており、改善傾向にあると判断できる。この点に関しては、オンライン授業が中心となった2020-2021年度のあいだに授業時間外の学習を促すさまざまな対策・工夫がなされ、それが効果を挙げていると考えられる。

また、授業内容の難易度を尋ねる問3「授業の内容の難易度はどうでしたか？」に対しては「適切」という回答が70.7%（前年度70.8%）と前年度並みの数値となった。ただし、授業内容の理解度を尋ねる問4「授業内容はよく理解できましたか？」に対しては「強くそう思う」が17.8%（2022年度23.6%、2023年度19.5%）、授業方法の工夫等を尋ねる問8「授業方法および資料は、十分に工夫・準備されていきましたか？」は「強くそう思う」が36.1%（2022年度47.2%、2023年度39.7%）といずれも減少傾向にある。これらの項目は、問9の学問的知識の習得および問10の満足度とも結びついていることから、授業で扱う題材選定や授業の進行形式についてさらなる改善が求められる。

以下より、2024年度春夏学期の授業改善アンケート結果の詳細を示す。

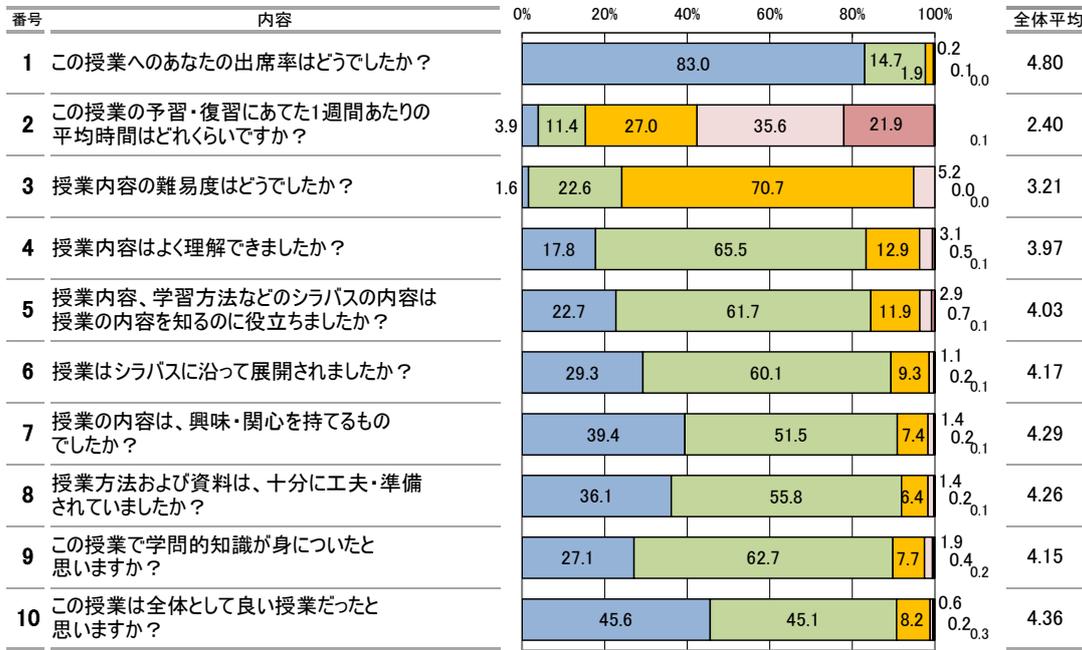
※学系別集計については以下のように集計している。

- ・自由回答項目については除かれ、選択式の設問について集計されている。
- ・学系別集計は、学部科目については各科目が属するカテゴリーごとに集計を行った。大学院科目については、回答数が少ない学系があるため一括して集計を行った。
- ・豊中キャンパスで開講される基礎科目は、行動・社会・教育・共生科目に割り振られている。
- ・学系の共通科目は、学系別集計に含めていない。
- ・各学系によって1科目あたりの受講者数などの状況が異なるため、科目群間でアンケート結果を単純に比較できない点に留意する必要がある。

授業改善アンケート

大阪大学 人間科学部・人間科学研究科
2024年度春学期

全体集計	履修者数	2002
	回答数	1398
	回答率	69.8%

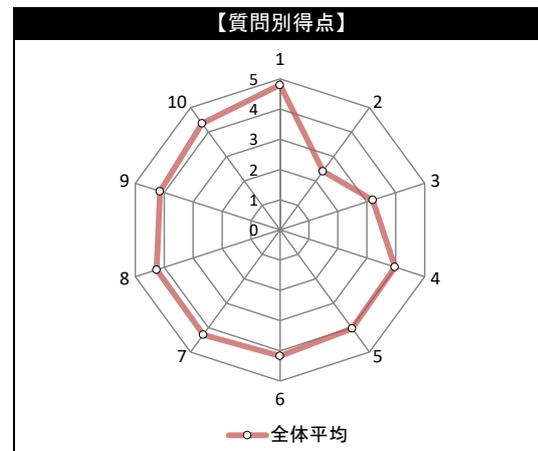


グラフ内数字は回答率(%)



回答凡例	5	4	3	2	1	-
配点	5	4	3	2	1	-
質問1	80%以上	60~80%	40~60%	20~40%	20%以下	
質問2	3時間以上	1.5時間~3時間	30分~1.5時間	30分未満	ほとんどなし	
質問3	難しすぎる	やや難しい	適切	やや易しい	易しすぎる	不明(無回答を含む)
質問4~9	強く思う	そう思う	どちらとも言えない	そう思わない	全く思わない	
質問10	非常に良かった	まあ良かった	普通	あまり良くなかった	良くなかった	

相関係数は±1に近いほど関係が強く、0に近いほど弱いことを意味します。プラスは正の相関関係、マイナスは負の相関関係です。総合評価であるQ9とQ10はどの項目と関係が深いのか、授業の何を改善すればよいのかの参考値として下さい。相関係数の「-」は計算不能を示します。(例: 回答者全員が同じ回答、回答データが1件のみなど)

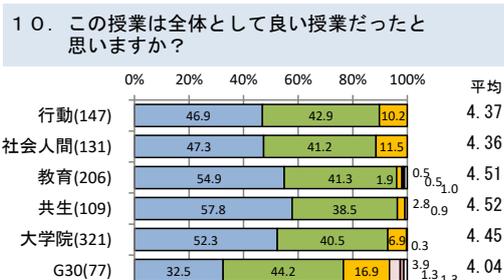
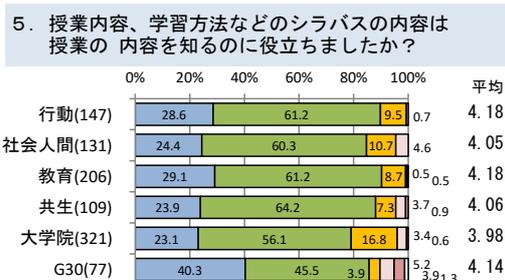
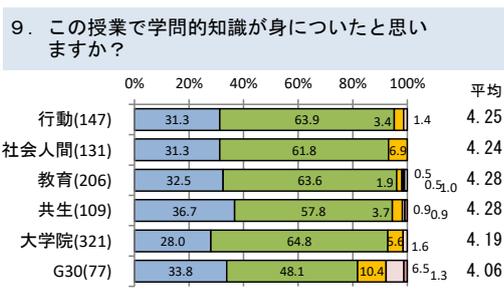
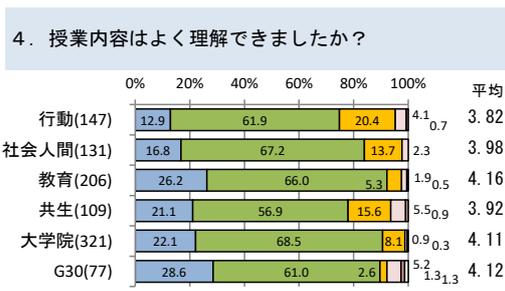
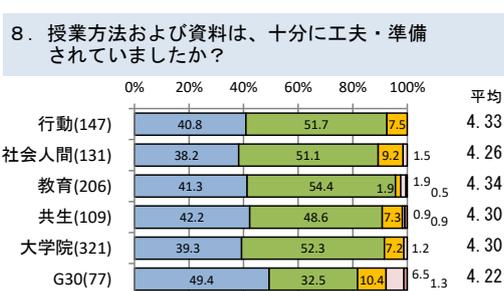
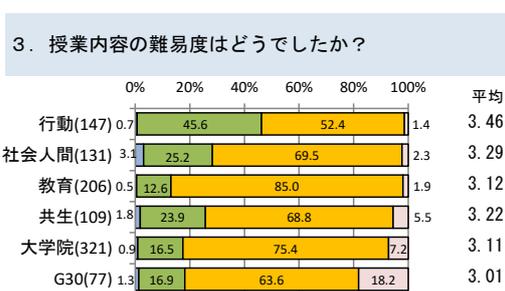
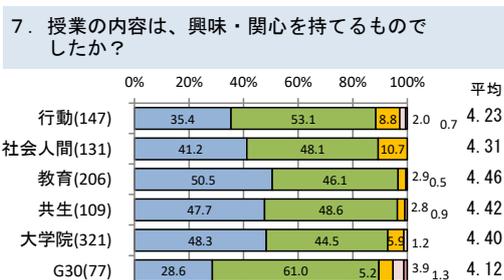
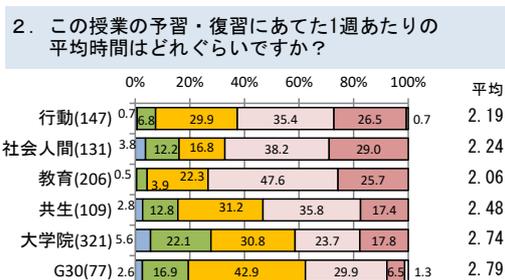
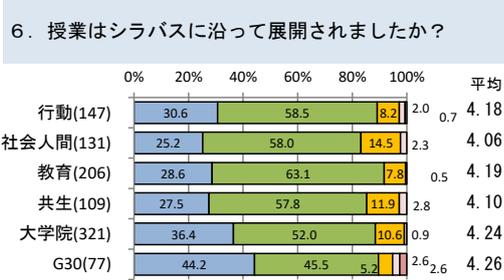
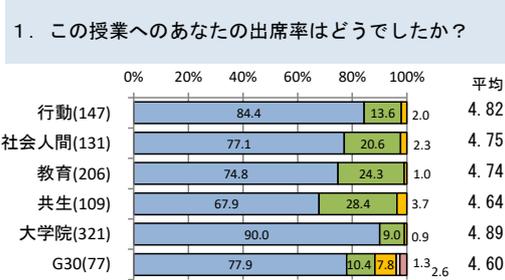


大阪大学 人間科学部・人間科学研究科
授業改善アンケート 2024年度春学期

学系別集計【全体】

※グラフ内数字は回答率（％）

回答凡例	5	4	3	2	1	-
配点	5	4	3	2	1	-
質問1	80%以上	60～80%	40～60%	20～40%	20%以下	
質問2	3時間以上	1.5時間～3時間	30分～1.5時間	30分未満	ほとんどなし	
質問3	難しすぎる	やや難しい	適切	やや易しい	易しすぎる	不明 (無回答を含む)
質問4～9	強く そう思う	そう思う	どちらとも 言えない	そう 思わない	全く 思わない	
質問10	非常に 良かった	まあ 良かった	普通	あまり 良かった	良かった	



<満足度上位の科目>

大阪大学人間科学部・人間科学研究科

問 10 より、満足度の結果を示す（有効回答数が 10 以上の科目のみ）。平均値が高いほど受講生の満足度が高いことを意味する。アンケート対象科目 96 科目のうち、有効回答数が 10 以上の科目は 45 科目であり、平均値 4.36 を上回ったのは 26 科目であった。

2024 年度春夏学期講義科目
満足度上位の科目一覧

【学部】

	科目名	有効回答数	問 10 平均値
1	地域創生論Ⅱ	10	5.00
2	教育・学校心理学	22	4.82
3	人類学理論	15	4.73
4	共生の人間学Ⅰ	21	4.67
5	共生行動論Ⅱ	24	4.63
6	発達臨床心理学(障害者・障害児心理学)	23	4.61
7	自然地理学	15	4.60
8	関係行政論	12	4.58
8	教育人間学	24	4.58
8	人権教育論	31	4.58

【大学院】

	科目名	有効回答数	問 10 平均値
1	コミュニケーション社会学特講	10	4.80
1	社会心理学特講Ⅰ	11	4.73
1	司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開	19	4.63
4	共生社会論特講Ⅰ	15	4.53
5	共生行動論特講Ⅰ(家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践)	22	4.36
6	人間科学学際研究特講	82	4.22
7	比較発達心理学特講(心理的アセスメントに関する理論と実践)	11	4.18
8	大学マネジメント論特講Ⅰ	10	4.10

3. 担当教員からのコメント

以下は、授業改善アンケート対象科目（ただし、基礎科目は除く）について、担当教員がアンケート結果も含めて授業を振り返ったコメントの一覧である。

【行動学系】

入戸野 宏

学部の講義科目は、「内容の理解」以外は、すべての項目で全体平均とほぼ同じか高く評価されていた。「内容の理解」も、今年度が3.68、昨年度が3.33であり、改善が認められる。これに関連して、「授業の難易度」も今年度が3.71、昨年度が4.08であった。これまでの授業改善努力が功を奏し、学生がより取り組みやすい内容になったといえる。

大学院の講義科目は、例年どおりすべての項目で平均を上回っており、適切に実施されていることが確認できた。

鹿子木 康弘

アンケート結果を見ると、各項目ともおおそ高い評価を得ているようである。難易度においても、適切な評価を得ており、内容に関しては特に問題ないかと思われる。しかし、講義系の授業で予習・復習の時間が短い学生が散見されたので、次回はこの点に注意して授業を進めたい。しかしあまり負荷をかけるのも良くないかと思ひ、その塩梅の判断が難しいところである。

山本 倫生

〔多変量統計科学〕一度講義や演習を受講しただけでは統計学の理論的な部分まですべてを理解することは困難ですが、受講者は各自でしっかりと取り組み、授業内容を習得していたように思ひます。今後学習を継続することでさらに理解を深めていくことを期待してひます。

中井 宏

概ね高評価だったが、自身の講義科目にて「予習のために、スライドを事前にCLEにアップして欲しい」とのコメントがあったため、次年度はできるだけ早めにアップできるよう準備したい。

また心理学実験については、学生から負担が大きいという声がか聴こえてくるため、レポート提出期限の見直しなど、担当教員間で相談したい。

【教育学系】

岡田 千あき

授業評価アンケートへの回答をありがとうございます。大人数の講義でしたが、予想以上い理解度が高く、難易度も適切あったとの評価でほっとしてひます。予習・復習の時間が平均より少なかったため来年度以降の開講の際の参考にさせていただきます。

岡部 美香

アンケートの回答をありがとうございます。今後も引き続き、授業内容・方法の工夫を重ねていきたいと思ひます。

佐々木 淳

臨床心理学特講 1

全員の結果が得られ、当初の想定と同じぐらいの程度の学びが提供できたと感じました。今後も教育方法の一層の充実をはかっていきたいとおもいます。

野坂 祐子

どの授業も熱心に参加されていて、よかったです。とくに、グループワークでの議論から多くの学びがあったという声もあり、みなさんの協力に感謝します。

自己学習（予習・復習）の頻度は、あまり高くありませんでした。大学生なので、教員の指示がなくても、積極的・自主的に学ぶことを期待します。

直原 康光

Q3, Q4 あたりと関連することであるが、大学院科目の場合、どこまで専門的な知識を前提に話をすればよいのか、また、負荷を掛けてよいのかのバランスを取ることが難しいと感じた。

荒牧 草平

アンケートの結果は概ね平均的であったが、シラバス関連の得点がわずかに低かった。よりわかりやすいシラバスとなるよう工夫していきたい。授業全体に対する評価はやや高かったので今後も同様の評価となるよう努力したい。

野村 晴夫

担当授業に関して概ね高評価を頂きましたが、1名から指摘されたシラバスとの対応に関して確認の上、必要に応じて改善します。

【共生学系】

稲場 圭信

おおむねよい評価であったのでよかった。予習と復習の時間がもう少しあってもよいと思うので、来年度は文献課題を出すなどして対応したい。

渥美 公秀

今期は敢えて資料等を CLE で公開せずに進めた。自分なりにノートをしっかりとして欲しかったのが狙いだった。しかし、賛否あり、次期からの対応を考えたい。

佐伯 いく代

「コンフリクトと共生 II 社会と環境のサステナビリティ」では、人と自然との共生をテーマとして、様々なトピックを取り上げました。はじめて触れる内容も多かったかもしれませんが、演習やレポートに前向きに取り組んでくれた学生さんが多かったように感じます。アンケートの結果は、今後の授業に活かしていきたいと思います。

【その他（学系外）】

*国際交流室

安元 佐織

<p>本授業は、英語を使用言語とし、英語が母語の学生とそうでない学生が受講しているため、毎回授業内容やスピードを模索しながら進めています。今回は、受講生から積極的に授業形態やスピードについてのアイデアをもらう事で、より参加型の授業になったように感じています。受講生の皆さん、ありがとうございました。</p>

2024年度人間科学研究科／人間科学部 授業アンケート回答結果 計15名分